

産業廃水処理市場に関する調査結果 2009

— 既存設備の更新・保守が需要の中心に —

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて産業廃水処理市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2009年9月～11月
2. 調査対象：産業廃水処理事業を展開している国内の主要企業
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

<産業排水処理市場とは>

産業廃水処理市場とは、産業廃水処理に関する機器、工事、メンテナンス等サービスを対象とする。純水製造リサイクル、有価物回収装置、薬品販売等は含まない。

【調査結果サマリー】

◆ 需要先の業績悪化から低迷する市場規模

2009年度の産業廃水処理市場は、事業者売上高ベースで1,200億円（前年度比85.7%）と、大幅に下落する見込みである。

◆ 既存設備の更新と保守が中心

2008年秋からの景気悪化の影響を受け、需要先である製造業の設備投資が大きく減少したことから、既存設備の更新、保守が需要の中心となっている。

◆ 市場予測：2010年度の市場規模予測は1,155億円、前年度比96.3%

2010年度の同市場は、国内景気の回復が遅れており、市場の拡大は難しいとみる。ただ、大口の需要先である自動車や電気電子分野の一部で業績回復の兆候がみえるため、今後設備投資も回復するものとする。ただし、廃水処理部門は直接利益につながる部門ではなく投資が遅延される傾向にあるため、2010年度は若干のマイナスに留まるものと予測する。

◆ 資料体裁

資料名：「産業廃水処理市場の現状と将来展望 2009年版」
発刊日：2009年11月30日
体裁：A4判 128頁
定価：105,000円（本体価格100,000円 消費税等5,000円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL：03-5371-6912 E-mail：press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況

2009年度の産業廃水処理市場規模は、1,200億円と推計する。

一般的に廃水処理部門はユーザーの利益に直接寄与しない部門であるため、設備投資対象としての優先順位が低く、その投資額も小さい傾向がある。

さらに、2008年の秋におきた金融危機の影響が2009年も継続しており、主要ユーザーである自動車、電気電子業界からの引き合い数が減少し、進行中の案件も一旦凍結されるなど、非常に厳しい状況にある。

2. 注目すべき動向

2008年秋以降、需要先である製造業の設備投資が大きく減少したことから、既存設備の更新、保守が需要の中心となっており、新設需要は減少している。また、ユーザーは処理の高速化や処理量の増加など、出来るだけコストを抑えて処理効率を高めることを望んでおり、産業廃水処理メーカーとしては現状、コストのかかる新しい装置の開発よりも既存装置の改良にてこうしたユーザーニーズを達成することに注力している。

3. 将来予測

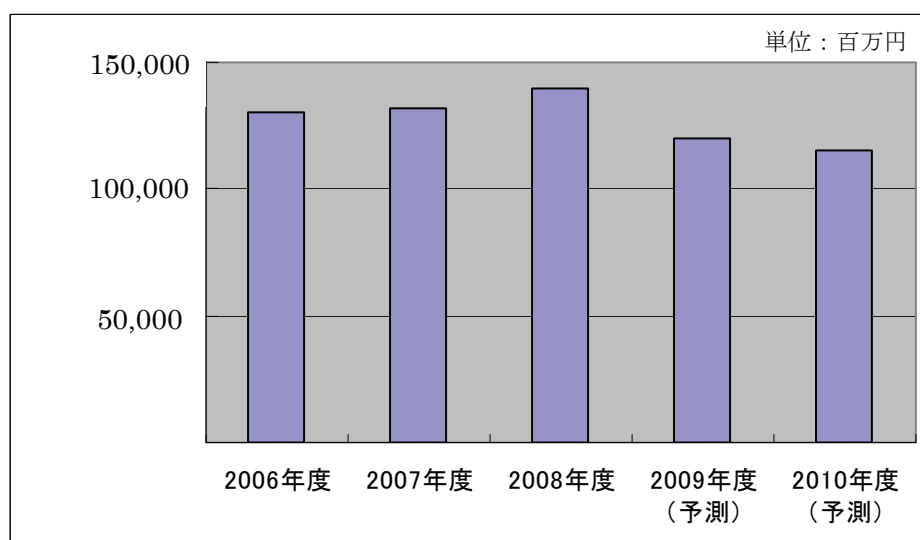
今後の産業廃水処理市場は、国内市場においては更新・保守需要が中心となっており、今後もしばらくはこの状況が続くとみる。

中長期的にみても、国内市場においてはあくまでも上記のような更新・保守案件が中心であり、環境規制の更なる強化や環境税の導入など、追い風となる要素がない限り大幅な市場拡大は見込みにくいと考ええる。

図表 1. 産業廃水処理市場規模推移

単位：百万円

年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度 (予測)	2010年度 (予測)
市場規模	130,000	132,000	140,000	120,000	115,500



矢野経済研究所推計

注 1: 事業者売上高ベース

注 2: (予測)は予測値